



森林ふれあい情報

令和4年7月
第58号

林野庁中部森林管理局

木曽森林ふれあい推進センター

〒397-0001 長野県木曽郡木曽町福島1250-7

TEL: 0264(22)2122 FAX: 0264(21)3151

E-mail: kiso-fureai@maff.go.jp

今年度は、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いたことから、3年ぶりに林業体験等のイベントが開催されました。

高校生の自然観察実習では、引率する先生が前任地で企画した赤沢自然休養林の林業体験が生徒に大変参考になったからと、今回新任地でも企画をしていただきました。

希少植物の開花調査

毎年、実施している木曽郡木曽町の城山国有林に自生する希少野生植物の開花調査の結果、今年は何の種も例年より開花が早く、ヤマシャクヤクは大型連休中に開花しました。

①カタクリの開花状況



開花前のカタクリ

②ヤマシャクヤクの開花状況



唯一満開前のヤマシャクヤク

③カザグルマの整備状況



蔓を間違えないよう慎重に作業しました

④ササユリの開花状況



野生動物の食害を免れ開花しました

赤沢自然休養林 トレッキングパズルラリー始まる

4月29日の開園に合わせ、赤沢自然休養林トレッキングパズルラリー第7弾を開始しました。昨年までは応募用紙に紙ピースを貼る方式で行っていましたが、「林内にあるパズル箱の紙ピースと台紙が湿気っている」、「ラリー中に紙ピースを紛失してしまう」等の参加者の声もあったことから、今年から台紙にスタンプを押す方式に変更しました。今年の大型連休は、新型コロナウイルスの感染が落ち着き、連日好天が続いたこともあって、休養林は多くの来園者で賑わい、パズルラリーも連休中に100組近い方が達成しました。その後も週末を中心に多くの来園者に参加いただいています。

新たな方式も参加者から好評で、スタンプに熱中するあまりパズル箱には試打ちした跡も無数に残されています。



第7弾の木製パズル



パズル箱に残されたスタンプの試し打ち



全所を回り完成した台紙

第7弾で準備した木製パズル300セットも残り少なくなっており、現在新たなデザインで第8弾の準備を進めています。

自然観察実習

5月12日、木曽郡上松町の小川入国有林（赤沢自然休養林）で、岐阜県立加茂農林高等学校森林科学科の2年生33名を対象とした自然観察実習が開催され、当センター職員が現地案内を行いました。この自然学習は「日本三大美林の一つである木曽ヒノキ林を見学し、人工林施業の歴史の理解を深めること」を目的とするもので、午前中職員が赤沢自然休養林の概要や木曽五木の特徴等を説明しながら休養林内を案内しました。

午後からは休養林内にある森林鉄道記念館や森林資料館の見学を行い、ボールドウィン（アメリカ製の蒸気機関車）等



「木曽地域の林業」の説明を聞く生徒

と記念撮影をしたり、木曽谷のジオラマや年輪板を熱心に見入る等、ここでも自然に興味を持つ姿が見られました。引率した先生からは「森林に親しみながら、木曽地域の林業の歴史を学ぶことができました。充実した学習となったことに感謝申し上げます」との感想をいただきました。



森林鉄道記念館を見学



森林資料館で木曽谷のジオラマを見学

「山と緑の協力隊」赤沢プログラム

5月21・22日の2日間、木曽郡上松町の小川入国有林「ふれあいの森」において、（特定）法人地球緑化センターが主催する「山と緑の協力隊」赤沢プログラムが開催され、東京都や徳島県等の遠方から7名のボランティアが参加しました。

この活動は、ヒノキ人工林で森林整備を実施しているもので、平成8年の開始から継続して行われてきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響のため3年ぶりに開催されたものです。

今回は除伐作業を行い、当センターと木曽森林管理署が技術指導に当たりました。

初日は当センター職員が指導を行い、初めにヒノキ（直径約16cm）の伐倒実演を行ってから2班に分かれ作業に入りました。



職員による伐倒指導



フェリングレバーを使って掛かり木の処理

ボランティアの中にはこれまでのプログラムに参加しているリピータもみえ、初めての参加者はその方から伐倒方向やかかり木処理等を教わりながら楽しく作業を行っていました。下山後に林道に駐機してあった高性能林業機械の説明を受け一日目を終了しました。

2日目は、木曽森林管理署職員の指導のもと、慣れた様子で前日と同じ作業を行い、作業終了後は平成17年の伊勢神宮御神木伐採跡地へ移動し、御神木の選木条件、三つ紐伐り等の説明を受け無事にプログラムを終了しました。

2日間の作業を通して参加者からは、「伐倒は思っていたより大変だった」、「このプログラムにまた参加したい」等の感想が寄せられました。

林業体験と学術研究路見学

6月3日、長野県上松技術専門校の訓練生42人が木曽郡上松町の小川入国有林の除伐作業と赤沢自然休養林の学術研究路の見学を行いました。

午前中は、人工林ヒノキの除伐作業に訓練生が5班に分かれ、職員からノコギリの使用方法和安全上の注意点について説明を受けた後に作業を行いました。多くの訓練生は林業体験は初めてで、伐採する木を班のメンバーで相談しながら慎重に作業を行いました。終了後は鬱蒼としていた林内も見違えるほど明るくなり、「林業体験は大変だったが達成があった」との感想が寄せられました。

午後からは学術研究路を散策し、樹齢三百年余りの木曽ヒノキやサワラが生育する森林を見学しながら、木曽の林業の歴史や木曽五木の見分け方・特徴などを学びました。



繁茂した林道沿いの灌木



作業状況



作業状況

編集後記

冒頭、「新型コロナの感染が落ち着いてきたので林業体験等のイベントが開催されました」と書いたばかりなのに、この号を編集している途中から連日、感染者数の最高記録が更新される状況になってしまいました。

本号でご紹介した3件の林業体験等は、新型コロナウイルスの感染対策を徹底したうえで実施しました。

しかし、今後、夏休みから秋にかけて計画されている林業体験等のイベントの開催が危ぶまれますが、準備は抜かりなく行いたいと考えています。

早く、新型コロナウイルスが蔓延する以前の状況に戻ることを願います。